

ていねの森コンサート2001あらかると

▶コンサートを前にした区民ホールでの練習風景



◀メンバー移動用バスの配車作業。スムーズにリハーサルを進めるための大切な仕事



◀いよいよ当日、メンバーが力を合わせて会場を設営します



▲本番前の最終調整。緊張感が伝わります

▶「美しく青きドナウ」で美しい歌声を披露する合唱団。実力を遺憾なく発揮



▲「私たちがにぎわいづくりを請け負います」。手稲山口運河まつり実行委員会の真鍋秀夫さん(左)と伊澤敏幸さん

出会いを大切にしています。合唱団や実行委員会のメンバーの方たちは仕事を持っている人が多いのですが、それぞれに時間を工面して頑張っています。ずっと続けてくれていて人も多いですよ。これも会員同士の素晴らしい出会いがあるからです。」

しかし、活動資金集めでは、やはり苦労するそうです。「厳しい時代だけど、快く趣旨に賛同してくれる地域の人たちには本当に感謝しています」と中村さん。

会を育ててきた中村さんに、昨年うれしいことがありました。かつて前田小学校で札幌と手稲高校合唱部のジョイントコンサートを開催した

時、それを聴きに来ていた当時の児童が、合唱団に加入してくれたことでした。「子供たちに心豊かに育ててもらおう」という当初の目的が実ったように感激したそうです。

「今後も新しい世代の人たちに私たちの活動が受け継がれていくとうれしいですね」。中村さんは今後の活動に向けての意欲を高めています。

ていねを音楽の街に

「ていねふるさとコンサートの会」は「ていねの森コンサート」のほかに「文化の日コンサート」、「クリスマスコンサート」と年に三回のコンサートを行なっています。

また、今年も、合唱団が札幌コンサートホール「キタラ」で、ベートーベン作曲の「交響曲第九番」を札幌と共演する予定(十一月三日)。「ていねを音楽の街に」をモットーに、音楽を通して地域文化の高揚を目指し、今後も活動を続けていくそうです。「興味を持ったらぜひ合唱団に参加してください。コンサートに参加することで音楽の本当の素晴らしさがわかるだけでなく、人とのすてきな出会いが生まれますよ。また、実行委員会に裏方として参加してくれる方も歓迎します。コンサ



「手稲山口運河まつり 実行委員会」

ふるさとのお祭りを

星置と手稲山口の間を静かに流れる山口運河は、かつて物資の輸送手段などとして掘られた川です。時代の流れとともにその役割を終えましたが、改修工事により周辺の景観と調和した川に生まれ変わりました。

この山口運河と周辺を会場に行われる「手稲山口運河まつり」は、もともと星置地区の明星町内会で行っていた七夕まつりがその始まりです。平成九年に山口運河を生かした地域全体のお祭りにしようと、星置連合町内会、手稲山口連合町内会、夢卜